

17 各種自己支持形ケーブル

表17-0-1

種類	形状	特長
ヒョウタン形ケーブル (略号:M) (SSDとも呼ばれる)		<ul style="list-style-type: none"> ケーブルと吊線一体にシースを被覆したヒョウタン形の基本形状です。 布設作業性が良好です。 風による振動防止のため、通常布設後捻回します。
スリット ヒョウタン形ケーブル (略号:SM)		<ul style="list-style-type: none"> M形ケーブルに、主部切裂き性を向上させるため、スリット付とした形状です。 M形同様通常布設後捻回します。
ハンガー ヒョウタン形ケーブル (略号:WM)		<ul style="list-style-type: none"> 風に対する抵抗を小さくし、捻回を不要(弱風地域のみ)とするよう、スリットを大きくし、首部に窓をあけた構造です。
反転ヘリカル ヒョウタン形ケーブル (略号:AHM)		<ul style="list-style-type: none"> M形あるいはSM形の形状で、一定間隔毎にケーブルに捻回をあらかじめ入れた構造です。 布設後の捻回が不要で作業性が良好です。
巻き付け形 吊線付きケーブル (略号:SSS)		<ul style="list-style-type: none"> 別々にシースした吊線部にケーブル部を巻付けた構造です。 ヒョウタン形に比べ割高となり、また布設による巻き付けピッチのずれに注意が必要です。
平行形 吊線付きケーブル (略号:SSF)		<ul style="list-style-type: none"> 別々にシースをした吊線部とケーブル部をバインド線で固定した構造です。 コネクタ取付けのため、ケーブル外周が真円に近い必要のある同軸ケーブルなどに用いられている構造です。
プレハンガ形ケーブル (略号:PHM)		<ul style="list-style-type: none"> ケーブル部と吊線部を一定間隔で固定するためケーブル部に余長を持たせることのできる構造です。 余長がとれるので長径間架設および光ファイバケーブルに有効です。 固定部が突起となっているので難着雪効果があります。

注) SM, WM, AHM形はPVCシースのみ, PHMはPE (又はLAP) シースのみ

18 通信ケーブルの遮へい構造

■静電遮へい構造

表18-0-1

シールド種類	構造	略号
銅テープ	0.1mm銅テープ横巻き	-S (CU)
アルミテープ	0.1mmアルミテープ横巻き	-S (AL)
ラミネートシース	0.2mmアルミラミネートPEシース	LAP, AP
銅・編組	0.1前後の銅線を編む	-SB (CU), -PSB (CU)
アルミポリエステルテープ	アルミ箔ポリエステルラミネートテープ巻き (すずめっき銅線入り)	-S (ALP)
金属化成紙	アルミ箔絶縁紙ラミネートテープ横巻き (すずめっき銅線入り)	-S (MTP)

■電磁遮へい構造, 性能(遮へい特性は図25-4-1, 25-4-2参照)

表18-0-2

番号	種類	構造	略号
①	アルミシース重遮へい	アルミコルゲートシース内径20mm 銅帯0.6×2枚	CA
②	アルミシース軽遮へい	アルミコルゲートシース内径20mm 鉄テープ0.2×2枚	CA
③	アルミラミネートシース銅帯がい装	軟アルミテープ0.2×1枚 銅帯0.6×2枚	LAPTA
④	アルミラミネートシース銅コルゲート	軟アルミテープ0.2×1枚 銅コルゲート0.4	LAPTX (Fe) ZE
⑤	銅鉄遮へい	軟銅テープ0.1×1枚 亜鉛めっき鉄テープ0.2×2枚	-S (Cu+Fe)